令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【白幡中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	学校全体としては、知識技能においては高い水準で学習できていることがわかった。しかし、実際に授業をしていく中で学習についていけない生徒が多数存在するのも事実である。特に知識については、高い水準の生徒と低い水準の生徒が二極化しており、それは塾や家庭学習の取り組みによる差が一つの要因になっている。家庭学習という教員の目の届かないところでいかに格差を埋めていくかが課題となっている。
思考・判断・表現	R5年度は、思考・判断・表現の項目ですべての教科において市の平均と比べると高い水準をキープすることができた。しかし、中2数学のみで高水準が残せたように学校全体で、そのレベルに達するところまではいっていない。本校では今年、教科間での授業見学や意見交換などの時間を設定して研修を進めたが、今後も各教員に頼るだけでなく、より良い指導ができるように授業改善を進めていく必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	本校では特に学力の定着がはかれていない生徒の主体的に取り組む態度に課題がある。現在本校ではフォローアップタイムという放課後、各教科の教員が学年の垣根を越えて生徒の学習をサポートしていく期間を年に2回設定している。しかし、この期間での学習は任意であり、今後は学力の水準を上げていきたい生徒をいかにそういった取り組みに参加する姿勢をもてるかが課題であり、そのための取り組みを進めていく。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等、タブレット端末を有効に活用した自主学習の推進やテスト前のフォローアップ期間の充実など、生徒個人の段階に応じた課題を踏まえ、個別最適な学びを追求し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
思考・判断・表現	R4年度さいたま度市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒	「学習の質的向上を目指す『学びのポイント』」を意識した授業づくりを進めながら、「ミライシード」や「Teams」を活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「国語の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合を令和4年度より3pt向上させる。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「協働」を重点とした学習活動をタブレット端末を活用したり、小グループでの話合いの場面を設定したりして効果的に行う。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価(※)
知識・技能	今年度のさいたま市学習状況調査の「知識・技能」の自校結果は、R4年度の自校結果より、数学は中1が－0.6pt。中2が＋0.2ptであり。国語は中1が＋13.6pt。中2が＋5.8ptという結果であった。数学も市の平均と比べて低いわけではなかったが、前年度＋3.0ptという目標に届いたのは国語だけであった。	B
思考・判断・表現	今年度のさいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」の自校結果は、R4年度の自校結果より、数学は中1が－15pt。中2が－2.3ptであり。国語は中1が＋10.2pt。中2が－8.3という結果であった。＋になったのは中1の国語だけであり、全体として低下傾向であることがうかがえる。	C
主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか。という項目において、肯定的な回答が見られた割合は、1年86.1%、2年79.6%、3年86.6%であり、目標とする90%には届かなかった。特に2年生は80%を下回っており今後も課題となる部分である。	C

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国の平均正答率と本校の平均正答率を比較すると、国語＋7pt、数学＋11pt、英語＋16ptであった。全国より正答率が高いが、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題が見られた。自分が用いている言葉の働きを客観的に捉えられるような活動を重視したい。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率と比較すると、国語＋9pt、数学＋13pt、英語＋12ptであった。全国より正答率が高いが、数学の「データの活用」の領域ににおいて課題がみられた。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するような活動を積極的に授業に取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は91.3%で全国の割合よりも12.1%上回ったが、「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問項目で課題が見られた。今後さらにタブレット端末の積極的な活用を進めていく。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

中1	数学において、1年生全体の知識・技能の項目は市全体の平均よりも6pt程上回っている。すべての項目で市の平均を上回っているが、「データの活用」においては、＋1ptと他と比べて差が少ない傾向が見られる。国語においては5.5pt高く、昨年度の課題であった「書くこと」に関しても数値が上がっており研修課題の改善が見られる。数学。国語だけでなく、資料をもとに自分の考えを構築していくような問題に対しての思考方法を身につけてく必要があると感じる。
中2	2年生全体の知識・技能の項目は市の平均よりも8.5ptという高い数値で上回っている。そのためすべての項目で市の平均を上回っているだけでなく、1年生ではやや課題が残った「データの活用」においても7pt上回るという結果になった。学年を越えて教科間で指導方法を共有するなどして、2年生の結果を他の学年にも反映させる取り組みをしていきたい。国語に関しては、2.6ptと上回った数値は小さいが、項目ごとには全ての項目で市の平均を上回った。また「書くこと」においても改善が見られた。
中3	生活に関する調査において、難しいことでも，失敗をおそれないで挑戦していますか。という項目で肯定的な解答は76.1%で市の平均から－3.3ptであった。本校では令和4，5年度の研修主題の副題を失敗を恐れず何事にも挑戦する生徒として研修を進めていたが、まだ成果に課題が残った。受験やテストの結果だけに捉われずに挑戦することの大切さを生徒に伝えられるようにしていかなければならない。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし